

2009年に輸入検疫で発見された主な重要病害虫

2009年、我が国には、貨物68.9万件、携帯品22.9万件、国際郵便物10.1万件、計101.9万件の植物が輸入されている。これらの植物のうち約2.2

万件の輸入禁止生果実が主に携帯品として輸入され、我が国が特に侵入を警戒する重要な病害虫が数多く発見されている（下表参照）。

発見病害虫名	寄主植物（発見植物）別発見件数	輸出国・地域別発見件数
<i>Ceratitis capitata</i> (*)	チェリモヤ生果実(2)、ナス科生果実(1)	ペルー(2)、ガーナ(1)
チチュウカイミバエ (3件)		
<i>Bactrocera dorsalis</i> species complex (*)	マンゴウ生果実(48)、バンレイシ生果実(29)、パンジロウ生果実(25)、レンブ生果実(24)、レイシ生果実(15)、トウガラシ生果実(8)、リュウガン生果実(7)、その他生果実22種(33)	ベトナム(55)、台湾(35)、タイ(31)、中国(18)、フィリピン(15)、インドネシア(14)、カンボジア(5)、その他9か国(16)
ミカンコミバエ種群 (189件)		
<i>Bactrocera cucurbitae</i> (*)	ササゲ生果実(1)、トカドヘチマ生果実(1)、ポインテッドゴード生果実(2)、モクバツ生果実(2)	タイ(1)、インドネシア(1)、インド(1)、香港(1)、ベトナム(2)
ウリミバエ (6件)		
<i>Bactrocera tryoni</i> (*)	トウガラシ生果実(1)	オーストラリア(1)
クインスランドミバエ (1件)		
<i>Cydia pomonella</i> (*)	セイヨウリンゴ生果実(1)	ウズベキスタン(1)
コドリンガ (1件)		
<i>Cylas formicarius</i> (*)	サツマイモ(1)、アルバ莖葉(1)	フィリピン(1)、タイ(1)
アリモドキソウムシ (2件)		
<i>Otiorynchus ovatus</i>	フロケラ切枝(4)	米国(4)
イチゴクチフトソウムシ (4件)		
<i>Lygus lineolaris</i>	ヨーロッパイチゴ生果実(1)	メキシコ(1)
サビイロカスミカメ (1件)		
<i>Aleurocanthus woglumi</i>	コガネタケヤシ切花(1)	中国(1)
ミカンクロトグコナシラミ (1件)		
<i>Anastrepha fraterculus</i> (*)	チェリモヤ生果実(2)	ペルー(2)
ミナミアメリカミバエ (2件)		
<i>Rhagoletis pomonella</i> (*)	リンゴ生果実(1)	米国(1)
リンゴミバエ (1件)		
<i>Bactrocera latifrons</i> (*)	トウガラシ生果実(133)、トウガラシ属生果実(12)、ナス属生果実(5)、ナス生果実(2)、バンレイシ生果実(1)	タイ(93)、ベトナム(44)、マレーシア(3)、ネパール(2)、パングラデシュ(2)、フィリピン(2)、中国(2)、その他5か国(5)
ナスミバエ (153件)		
<i>Bactrocera correcta</i> (*)	パンジロウ生果実(11)、マンゴウ生果実(4)、レンブ生果実(4)、ヒイラギトラノオ属生果実(3)、サボシラ生果実(2)、その他生果実6種(6)	ベトナム(15)、タイ(11)、スリランカ(3)、ミャンマー(1)
セグロモモミバエ (30件)		
<i>Bactrocera zonata</i> (*)	マンゴウ生果実(7)、ナツメヤシ生果実(1)	エジプト(3)、パキスタン(3)、インド(2)
モモミバエ (8件)		
<i>Leucinodes orbonalis</i> (*)	ナス生果実(2)	インドネシア(1)、タイ(1)
ナスノメイガ (2件)		
その他の重要病害虫 (254件)	アスパラガス、ブロッコリー莖葉、セロリー莖葉、ライム生果実、タチチシャ莖葉、エンドウ生果実、キク属切花、デンサイ種子、フダンソウ属種子、オレンジ生果実、レモン生果実等	ペルー、米国、メキシコ、フィリピン、ベトナム、インドネシア、マレーシア、中国、イタリア、フランス、英国、オーストラリア等

(*)：輸入禁止品からの発見（青字を除く）

海外のニュース 米国で分布を拡大するミカンキジラミ

ミカンキジラミ (*Diaphorina citri*) は、ミカントガリキジラミ (*Trioza erytreae*) とともに、カンキツの重要病害であるカンキツグリーニング病 (Citrus Huanglongbing) の媒介虫として知られている。

本種は、米国では1998年にフロリダ州パームビーチ郡で初めて発見され、その後、2001年までに同州の31の郡に分布を拡大し、同年春にはテキサス州南部にも侵入した。また、プエルト・リコ及び米領バーズン諸島にも同年には侵入していたと考えられている。そして2005年、フロリダ州においてカンキツグリーニング病の発生が初めて確認されている（本誌78号）。

本種はさらに、2006年にハワイ州で、2008年にアラバマ、ジョージア、ルイジアナ、ミシシッピ、サウスカロライナ及びカリフォルニアの各州で発生が確認された。また、ルイジアナ州では、カンキツグリーニング病の発生も確認されている（本誌86号）。さらに2009年4月にサウスカロライナ州チャールストン市で、同年6月に

ジョージア州サバンナ市で、それぞれ同病の発生が確認されている。

現在、本種の発生地域は、フロリダ、アラバマ、ジョージア、ルイジアナ、ミシシッピ及びハワイ各州とプエルト・リコ及び米領バーズン諸島の全域、それにサウスカロライナ州及びカリフォルニア州の一部地域で、カリフォルニア州では、南部のかんきつ主要生産郡にも分布を拡大している。一方、カンキツグリーニング病の発生はフロリダ州、ジョージア州、プエルト・リコ及び米領バーズン諸島の全域と、ルイジアナ州及びサウスカロライナ州の一部に留まっていることから、カンキツグリーニング病が未発生のミカンキジラミ発生地域では、特に同病の侵入リスクの高い地域として警戒が続けられている。

発行所 横浜植物防疫所

発行人 川口 嘉久

編集責任者 金田 昌士

掲載 植物防疫所ホームページ <http://www.maff.go.jp/pps/>